

ただし、 S としては
$$S[\chi] = \int dt \left\{ (m/2) [d\chi(t)/dt]^2 - V(\chi(t)) \right\}$$
なる S を用いた。この方程式の物理的意味はまだ不明だ。変分原理の形に方程式を書き直す事は方程式を（汎）関数に変換する行為と見なされ得る、という点に私は興味を持つ。古典力学の運動方程式を変分原理の形に書く事は運動方程式を作用汎関数に変換する行為だ、という風に。変分がゼロに成る事が運動方程式と等価でありさえすれば良いだけなら、作用汎関数以外にもそういう汎関数は無数にある。古典力学に留まるならば、汎関数のその任意部分は物理的には意味が無い。しかし、量子論的には作用汎関数はその全体が物理的意味を持つ事が、経路積分法から分かる。だから、方程式→（汎）関数→方程式という階段の、文法的に一段階上の理論に進む方法としての、有効性を検討すべきだ。